

## 取引先の脱炭素化に向けた取組支援について

---

2022年9月7日



ソリューション営業部  
小澤

## Section 1 弊行の脱炭素支援業務

---

# 弊行の脱炭素化支援業務

## STEP 1

**現状把握**  
SCOPE1,2の排出量把握

**GHGプロトコル**と呼ばれる国際規格で事業活動による地球へのダメージを把握

Scope1 (直接排出)		Scope2 (間接排出)	
対象	CO2排出量 (t-CO2/年)	対象	CO2排出量 (t-CO2/年)
ガソリン		電気	
軽油			
ガス			
合計		合計	

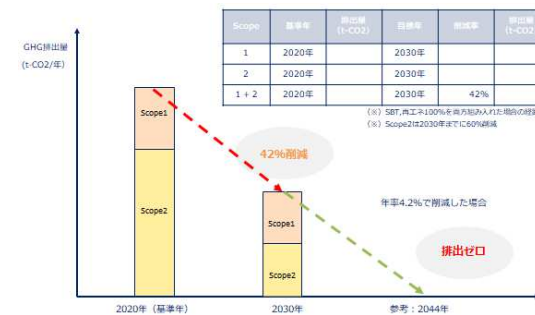
Scope1, 2の排出量合計

●●●t-CO2/年

## STEP 2

**目標設定**  
SBT水準の削減目標を設定

**SBT水準**と呼ばれる目標をもつ



## STEP 3

**削減・開示**  
目標を経営へ統合  
排出削減と開示

毎年、排出量、達成状況、削減活動を**正確に情報開示**する

分類	個別手段	導入コスト / 回収年	実施時期	削減率・量	2030年段階削減量累積	2042年段階削減量累積
系統電力の排出係数改善		-	毎年 (電力会社)	1% 2t-CO2/年	24t-CO2	
省エネ設備導入	例) 照明のLED化					
	例) 高効率設備導入					
再エネ導入	例) 太陽光発電導入					
	例) バイオマスボイラ導入					
その他	例) 車両のEV化					

# 脱炭素経営取組みへの気付き

## 顧客要求

- 取引先より、年率3%の削減要請が提示された。
- CDPサプライチェーンプログラムを活用した環境経営に関する膨大な質問書が送付されてきた。
- サプライチェーン全体でのカーボンニュートラル達成に向けた勉強会や委員会が立ち上がった。

## リーダーシップ

- いずれ対応しないといけないのであれば、サプライチェーン内の他社よりも先行して取組みたい。
- SBTを取得し、先進的な脱炭素経営企業として、取引先やステークホルダーにPRしていきたい。

## 排出量算定依頼

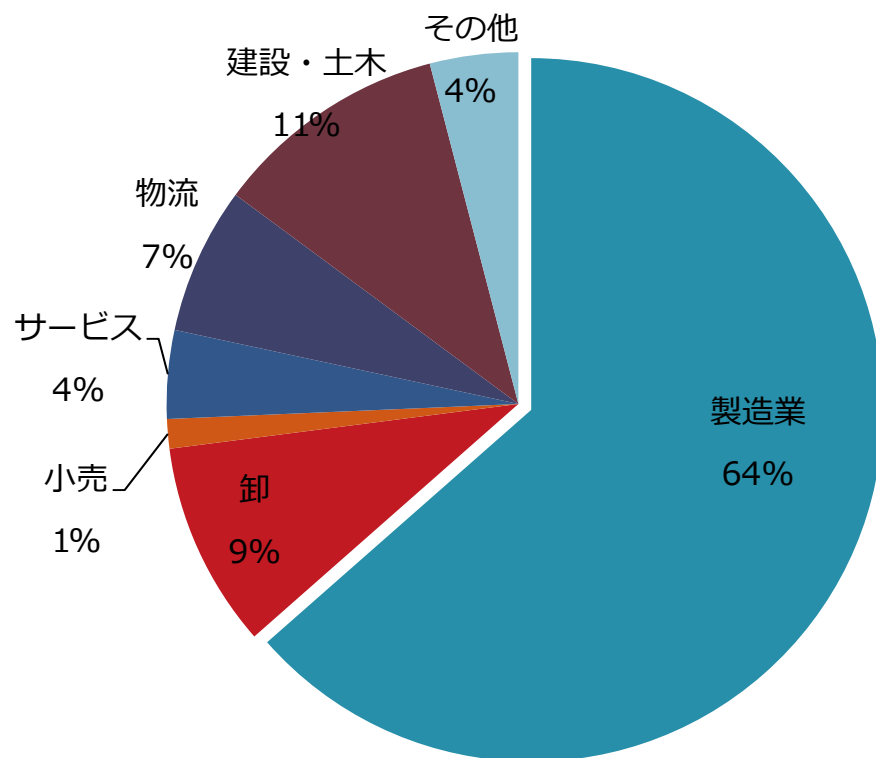
- 取引先より〇月に開催される〇〇部会にてCO2排出量を報告するよう指示があった。
- 取引先の「SBT」の説明を受けると同時に脱炭素経営の取組開始をするよう指示があった。
- 従来は使用電力量の調査程度であったが、排出量の報告に変わった。

## SDGs

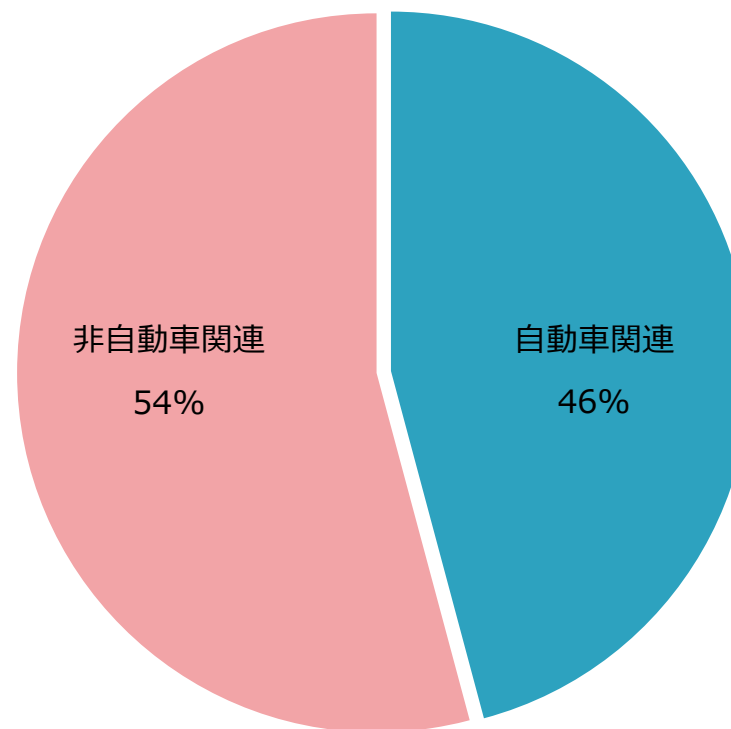
- 温暖化が進めば自社の商売が成り立たなくなる。僅かでもいいのでカーボンニュートラルに貢献したい。
- SDGs宣言までは行ったが、具体的な取組みができておらず悩んでいた。気候変動対策を「柱」に、SDGsの取組みを加速化させたい。

# 契約先から見える傾向

## 契約先業種



## 製造業のうち自動車関連割合



## Section 2 排出量算定・目標設定後の支援

---



基本ルール



SCIENCE  
BASED  
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

① 対顧客メリット

② 対サプライヤーメリット

③ 対社内・従業員メリット

# 削減支援例

## POINT 1 : 排出量算定

対象	CO2排出量 (t-CO2/年)	対象	CO2排出量 (t-CO2/年)
ガソリン	165.70	電気	5,110.07
軽油	391.03		
ガス(都市ガス)	55.71		
ガス(LPG)	1.51		
灯油	12.66		
合計	626.60	合計	5,110.07

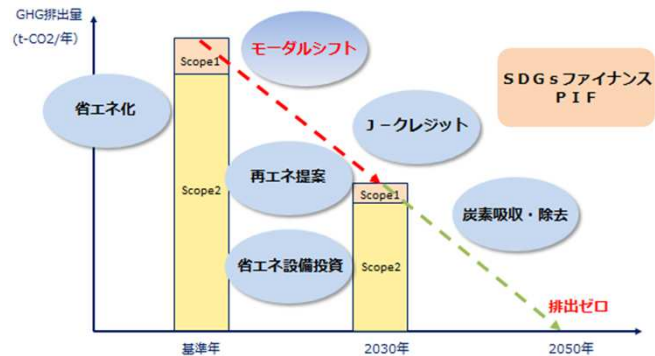
- 見える化

## POINT 3 : JR貨物ターミナル見学会



- 気づき

## POINT 2 : 削減目標設定



- 課題共有

## POINT 4 : 削減



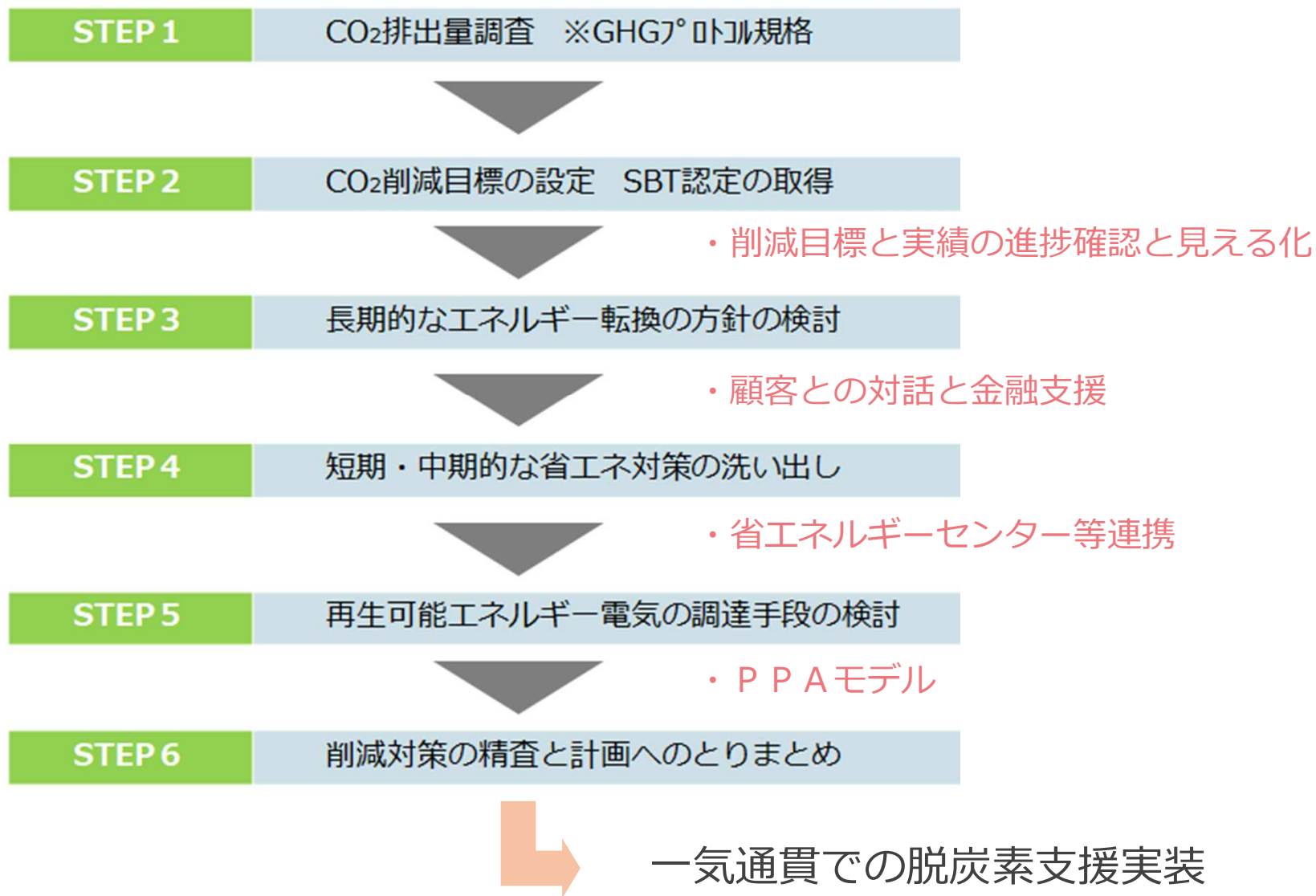
- モーダルシフト(▲685 kg-CO2)



## Section 3 今後の方向性と対応課題

---

# 今後求められる削減フェーズ



ご清聴ありがとうございました。